家庭菜園 Q&A

問題解決!

農産部 担い手課 営農主幹
検校 哲也

Q1 柑橘系調味料に使いたくて、レモンや柚子(ゆず)を育てたいのですが、難しいですか。

A1 明けましておめでとうございます。

正月、鏡餅には、橙(だいだい)を飾ります。橙は、冬にいったん熟しても翌春には再度緑色に戻り枝に残ります。代々続いて繁栄しますようにと縁起を担いだんですね。

さて、レモンと柚子、難しくありません。日当たりの良いところに植えてあげれば、ほとんど農薬を使わずに育ちます。植え付けは、3月下旬～4月上旬。植え付けたその年は果実を収穫しません。今後何年も収穫し続けるために、実がなってしまったら全部摘果します。そうすることで、木への負担が軽くなり、よく育ちます。

たまに、よく肥えた土地に植えたり肥料をやり過ぎた場合、木ばかり大きくなって実がならないことがあります。そうなったら、肥料を一切やらずに育てます。さらに、真上に立ち上がっている枝を剪定するか、ひもで外側に引っ張るなどして横に広がるように樹形を整えます。

剪定は3月頃。中心部まで日光が当たるように開心形に仕立てます(図1)。木が広がって実の着きが良くなり、収穫もしやすくなりますよ。

トゲは、なくても生育に影響しません。小さいお子さんや犬がいて心配という方は切りましょう。

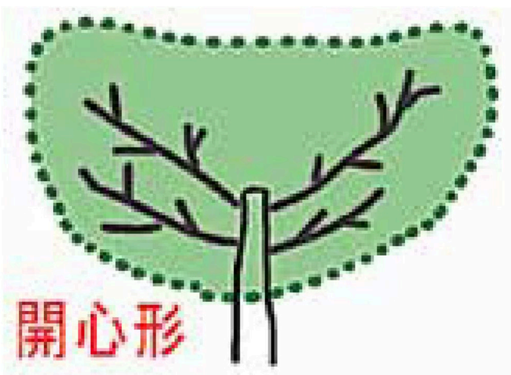

図1

肥料は、レモンが3月・6月・11月の年3回、柚子は3月と10月に与えます。枝葉の広がりに合わせて円形にパラパラと化成肥料をまきます。直径1mの広がりなら、1株に100gの化成肥料が目安です。

レモンは、緑色でもグリーンレモンとして楽しむことができますし、春が来て暖かくなる4月まで木に成らせたままでもかまいません。必要な時に必要なだけ収穫しましょう。ただし、木に成らせたままだと、だんだん皮が分厚くなります。

Q2 庭木を剪定した後の枝、なにかいい使い道はないですか。

A2 落葉樹は、休眠している今が剪定の時期です。放っておくと、伸び放題になって手に負えなくなります。日当たりの悪いお化け屋敷になる前に剪定しましょう。

全体を見て、込み合ったところをすかしてゆきます。枯れ枝や弱った枝を落として、間伸びした枝、立ち枝、下向き、内向き、重なりを剪定してすっきりさせましょう。風通しが良くなり全体に日も当たって、元気に育つようになります。

一年中、葉をつけている常緑樹は、冬の寒さが苦手です。休眠することはなく、ゆっくり育っています。枝や葉を落とすと寒さで弱ってしまいます。暖かくなる3月を持ちましょう。

さて、剪定枝の活用です。燃やした灰を土壌改良材に、砕いて有機資材に、ウッドチップにしてマルチに、薪にして燃料に使われています。

でも、家庭で燃やすわけにはいかないですし、チップを作る粉砕機は高価で騒音が近所迷惑、薪を使うこともないですね。積み上げておいても腐って分解するまで2～3年かかります。市町村のルールに従って可燃ゴミで出すのが現実的です。指定のサイズに切って指定のゴミ袋に入れます。入らない大きい枝は粗大ゴミ扱いとなるようです。

全部の剪定枝を使い切るのは無理でも、ちょっと工作してディスプレイ(写真1・2)にしたり、花壇の仕切りや庭の目隠し(写真3)に使う手もあります。ひと工夫して楽しんでください。

オンライン農業塾はじめました!
▼動画はコチラ▼

写真3

写真2

写真1